

次回地域市民参加懇談会の開催について（案）

1. 開催日時

平成19年10月

2. 開催場所

- ・これまで市民参加懇談会を開催していない地域
- ・比較的大きな消費地

仙台市

人口：103万人（19年8月現在、対前年同月比0.2万人増）

GDP：4兆3521億円

（平成16年度実質市内総生産、実質経済成長率△0.0%）

電力消費量：6,606,324（千kwh）

（17年度 対前年度+2.3%、主要15都市中第14位）

川崎市

人口：137万人（19年8月現在、対前年同月比2.5万人増）

GDP：4兆8717億円

（平成16年度実質市内総生産、実質経済成長率+1.1%）

電力消費量：9,361,409（千kwh）

（17年度 対前年度-0.2%、主要15都市中第8位）

横浜市

人口：363万人（19年8月現在、対前年同月比2.5万人増）

GDP：13兆3270億円

（平成16年度実質市内総生産、実質経済成長率+1.5%）

電力消費量：20,901,753（千kwh）

（17年度 対前年度+16.1%、主要15都市中第4位）

名古屋市

人口：224万人（19年8月現在、対前年同月比1.3万人増）

GDP：13兆688億円

（平成16年度実質市内総生産、実質経済成長率3.0%）

電力消費量：39,363,527（千kwh）

（17年度 対前年度+2.9%、主要15都市中第2位）

神戸市

人 口：153万人（19年8月現在、対前年同月比0.2万人増）

GDP：6兆2933億円

（平成16年度実質市内総生産、実質経済成長率+1.8%）

電力消費量：9,416,977（千kwh）

（17年度 対前年度+1.7%、主要15都市中第7位）

広島市

人 口：116万人（19年8月現在、対前年同月比0.5万人増）

GDP：4兆6928億円

（平成15年度実質市内総生産、実質経済成長率+1.1%）

電力消費量：6,687,305（千kwh）

（17年度 対前年度+3.2%、主要15都市中第13位）

3. 開催テーマ

（案1）

原子力 ～知りたい情報は届いていますか～

「原子力発電所と地震」

内容：

新潟県中越沖地震で被害を受けた柏崎刈羽原子力発電所を巡る課題と教訓を抽出しつつ、原子力発電所と地震を巡る諸問題について参加者との意見交換を行う。当日は、地震災害と原子力発電所のトラブルが同時に起こった新潟県中越沖地震時の柏崎刈羽原子力発電所の状況及び報道ぶり等について、有識者から話しを伺い、議論の参考とする。

（案2）

原子力 ～知りたい情報は届いていますか～

「原子力発電所における平時と緊急時の情報提供」

内容：

原子力発電所における平常時の情報公開、災害時における情報提供の在り方について、現状等を説明しつつ参加者との意見交換を行う。その際、地震災害と原子力発電所のトラブルが同時に起こった新潟県中越沖地震の柏崎刈羽原子力発電所の状況とその後の報道等について、有識者から話しを伺い、議論の参考とする。

4. 招へい者候補案

- ・ 地方自治体（新潟県、柏崎市、刈羽村等）
- ・ 報道関係（例えば、原子力報道を考える会 阿部道子氏（元放射線医学総合研究所養成訓練部長））
- ・ 開催地市民グループ代表
- ・ 原子力に関する世論調査の研究者（例えば、エネ総工研 下岡浩氏）
- ・ 地震の専門家
- ・ 耐震設計の専門家
- ・ 国の原子力安全行政関係者

5. 開催プログラム案

- 第1部 ・各パネリストによる、御意見発表（一人10分程度）
・パネルディスカッション
- 第2部 ・会場参加者から御意見を伺う
（事前に参加者に御意見を伺い、当日の議論の参考とする。）

6. 開催時間等

- ・ 開催日 : 平日又は休日
- ・ 開催時間 : 日中又は夕刻
- ・ 開催時間配分 : 第1部 90分、第2部 60分

7. 会場レイアウト

- ・ スクール形式（主に消費地開催に使用）
- ・ パネリストを参加者が囲う形式（主に立地地域開催に使用）

8. 参加募集人数

150～200名程度

(参考)

これまでの活動実績

原子力委員会は、平成 13 年 7 月に市民参加懇談会を設置し、これまで、平成 14 年 1 月 15 日の新潟県刈羽村での開催を皮切りに、平成 18 年 12 月 6 日の島根県松江市での開催まで、合計 14 回開催しています。その間の参加者人数は延べ 2300 人、1 回当たり平均 162 人が参加しています。

(1) 「市民参加懇談会」コアメンバー会議

評論家、ジャーナリスト、学識者、消費者等、多様な立場の方々をメンバーとし、地域での懇談会をどのように開催していくか、といったことをはじめ、原子力政策策定への市民参加の拡大を目指して、さまざまな方策について企画・検討しています。

平成 13 年 9 月 20 日の第 1 回企画メンバー会合（第 4 回会議より現在の名称となる）から本日のコアメンバー会議まで、合計 27 回開催されています。

(2) 地域での懇談会開催

①市民参加懇談会 in かりわ（平成 14 年 1 月 15 日）

「わたし達がエネルギーを大切に使うためには、どういう暮らし方がいいか。」、「エネルギー供給のあり方は、どうあったらよいか。」、「いま、原子力発電に求められるものは何か。」をテーマに、開催しました。刈羽村の方を中心に約 100 名の参加があり、原子力やプルサーマルについて、また、国・事業者や住民の姿勢について、多様な意見が出されました。

開催にあたっては、刈羽村の有志の方々と何度も意見交換を重ね、開催日やテーマ、発言者等について決めていきました。

②市民参加懇談会 in 東京（平成 14 年 7 月 24 日）

「日本のエネルギーの需要と供給はどうあったらいいか。」、「原子力発電は必要か、あるいは不要か。」、「原子力政策決定過程と市民とのかかわり」をテーマに開催しました。約 110 名の参加があり、各界のエネルギーについての意識、原子力に関する意見、原子力委員会や市民参加懇談会への期待など、多様な意見が出されました。

③市民参加懇談会 in 東京（平成 14 年 11 月 19 日）

「知りたい情報は、届いているのか」－東京電力の不正記載を契機として－をテーマに開催しました。約 180 名の参加があり、情報公開、国や企業などの姿勢について多様な意見が出されました。

④市民参加懇談会 in 青森（平成 15 年 3 月 15 日）

「知りたい情報は届いていますか」－核燃料サイクルを考える－をテーマに開催しました。約 200 名の参加があり、情報公開のあり方や教育の必要性など多様な意見が出されました。

⑤市民参加懇談会 in 敦賀（平成 15 年 6 月 28 日）

「原子力と地域社会」－原子力が地域にもたらすプラスとマイナスを考える－をテーマに開催しました。約 250 名の参加があり、今後の共生のあり方やもんじゅの今後についてなど多様な意見が出されました。

⑥市民参加懇談会 in さいたま（平成 15 年 10 月 14 日）

「この夏の電力危機とは何だったのか」－電力の消費地から安定供給を考える－をテーマに開催しました。約 170 名の参加があり、電力危機が起こった背景、電力危機が何をもたらしたかなどについて多様な意見が出されました。

⑦第 7 回市民参加懇談会～長計へのご意見を述べていただく場として～

（平成 16 年 3 月 27 日）

新たな原子力長期計画のあり方やその検討の進め方を審議、決定するための準備活動を開始したことから、「意見募集」を行い、応募していただいた方から直接ご意見を伺う場として開催しました。意見募集は 475 件の応募がありました。

約 110 名の参加があり、第 1 部「発言希望をいただいた方からご意見を聴く会」では、9 名の発言者の方からご意見を伺い、第 2 部「会場参加者、発言者からご意見を聴く会」では、挙手により会場参加者の 11 名の方からご意見を伺い、さらに伺ったご意見に関連して、第 1 部の発言者からもご意見を伺った。原子力長期計画のあり方、位置づけや原子力長期計画策定プロセスなど多様な意見が出されました。

⑧市民参加懇談会 in 福島・ふたば（平成 16 年 5 月 22 日）

「原子力と暮らし」～これまでとこれから～をテーマに開催しました。約 170 名の参加があり、地域振興、信頼、生産地と消費地の温度差、原子力政策、原子力行政などについて多様な意見が出されました。

⑨第9回市民参加懇談会～核燃料サイクル政策に関してご意見を述べていただく場として～

(平成16年10月29日)

新計画策定会議において調査審議されている「核燃料サイクル政策」に関して、ご意見を伺う場として開催しました。約180名の参加があり、エネルギーセキュリティ、核不拡散、「もんじゅ」などについて多様な意見が出されるとともに、美浜発電所3号機事故に関する意見が出されました。

⑩市民参加懇談会 in 福岡 (平成17年9月26日)

「原子力と暮らし」～知りたい情報は届いていますか～をテーマに開催しました。約160名の参加があり、情報発信の在り方及び受け取り方について、原子力政策、マスメディアの役割、学校でのエネルギー教育、環境問題、プルサーマル計画などの面から多様な意見が出されました。

⑪市民参加懇談会 in 御前崎 (平成17年10月5日)

「知りたい情報は届いていますか」～これまでと、これから～をテーマに開催しました。約240名の参加があり、テーマである知りたい情報に関して、原子力発電の安全性、プルサーマルなどの多様な意見が出されました。

⑫市民参加懇談会 in 姫路 (平成18年3月11日)

「21世紀の放射線利用について」～ 知りたい情報は届いていますか ～をテーマに開催しました。約170人の参加があり、医療分野、農業分野、工業分野における放射線利用について多様な意見が出されるとともに、広聴・広報活動、教育等に関する意見が出されました。

⑬市民参加懇談会 in 札幌 (平成18年9月29日)

「原子力～知りたい情報は届いていますか～」をテーマに開催しました。約120人の参加があり、パネリスト間で原子力発電の安全性、環境問題等の多様な意見が出されました。

⑭市民参加懇談会 in 松江 (平成18年12月6日)

「原子力～知りたい情報は届いていますか～」をテーマに開催しました。約120名の参加があり、テーマである知りたい情報に対して、広聴・広報活動、教育、原子力防災などの多様な意見が出されました。